

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第15期 第2年 第2回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2025 (令和7) 年 9月7日 (日) 午後2時00分～5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 20人

(2) アディダヤ ヨザ、イトウ ユリカ キヤレン、ウイ スー ケット、鎌田
ファチマ、金 寿瑛、単 望舒、スン チン グアン、セネ アイサトウ チンボ、
張 遙、朴 慧珍、ヒラノ ジョイミ、ヒリストバ ガブリエラ、ブー ホン アン、
プストフスキー アナスタシア、ポカレル ナラヤン、ボソ ミゲル アンヘル、
ポラニスキ ビョートル、楊 子宜、ラハマシ ジアウル、李 詞、ルイス
ジェームス

(3) 事務局

小出 課長、三田村 課長補佐、堤 職員、河田 専門調査員、須藤 職員

4 傍聴者 21人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

事務局小出課長「7月下旬にセネ委員長が退任した。スリニヴァサン副委員長も急遽海外出張で本日不在である。したがって、次期委員長が決まるまで事務局が進行を務めさせていただきます。まず、セネ元委員長が挨拶に来ているので、お願いする。」

セネ元委員長「この度一身上の都合で代表者会議を辞めることになった。最後までみなさ

んとやりたかったので残念であるが、引き続き応援したいと思う。今までお世話になり、ありがとうございます。」

事務局小出課長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2025年度第2回第2日を開催する。今日は、スリニヴァサン委員、鄭委員、ギーゼック委員、ハン委員、古谷委員から欠席連絡があった。まず、日程と配布資料について事務局から説明をお願いします。」

(事務局三田村課長補佐より資料に基づき説明)

事務局小出課長「前回のまとめについて事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員が資料1に基づき説明)

事務局小出課長「何か質問があるか。(なし)では、議事に入る。事務局から説明をお願いします。」

(事務局三田村課長補佐が資料2に基づき説明)

事務局小出課長「何か質問があるか。」

イトウ委員「副委員長が委員長に自動的に格上げされることはないのか。」

事務局三田村課長補佐「川崎市外国人市民代表者会議条例の第6条の3にあるとおり、副委員長が委員長の不在時にを代理することあるが、欠けた場合に副委員長が委員長になるという規定ではないので、改めて互選により決定する必要があるという解釈である。ただ、互選により現職副委員長が委員長になった場合は、副委員長が欠けるので、副委員長についても改めて互選で決めることになる。」

事務局小出課長「他に質問があるか。(なし)本日の出席者は20名である。過半数は11名となる。では、議事に移る。案として、立候補した人と推薦された人の両方を候補者とするについて、賛成の方は挙手をお願いします。(全員賛成)では全会一致をもって、決定した。次、選出方法について、案として、候補者になった人から投票で選ぶに賛成の方は挙手をお願いします。(全員賛成)こちらも全会一致をもって決定した。では、立候補者を募り、その後推薦を募る。まず、本日不在であるが、スリニヴァサン副委員長から立候補を受けているので、委員長表明を代読する。今回、セネ元委員長の退任は非常に残念ですが、このことが私たちの活動に悪影響があってはなりません。これまで委員長との近くで支え、協力して会議の運営やとりまとめに携わってきました。委員長として、今期活動の最終段階を責任をもって進めていきたいとおもいます。みなさんとともに最後まで力を尽くす覚悟です。どうぞ委員長としての役割を任せていただきたいと思います、以上代読した。では、立候補者がいれば挙手をお願いします。(なし)立候補者はスリニヴァサン委員のみということで、では、推薦があれば挙手をお願いします。」

朴委員「ルイス委員を推薦する。人間関係の調整に長け、よく話を聞く方である。委員長にふさわしいと思う。」

ブストフスキース委員「イトウ委員を推薦する。期の最初に、委員長の役割を希望しており、熱意もある。」

ルイス委員「自分もイトウ委員を推薦したい。」

事務局小出課長「では、推薦された人から、推薦を受けるか辞退するか確認したい。」

ルイス委員「大変光栄ではあるが、辞退する。」

ポソ委員「質問がある。もしここでスリニヴァサン委員が委員長にならなかったとしても、副委員長の役割は継続することになるか。」

事務局小出課長「そのとおりだ。」

金委員「例えば、推薦された方は副委員であればやりたい、ということはあるか。」

ルイス委員「その場合でも辞退したい。」

イトウ委員「推薦を受けることにしたい。」

事務局小出課長「では、スリニヴァサン委員とイトウ委員を対象に投票に移りたい。では投票用紙を配る。」

(投票用紙の配布・記入)

事務局小出課長「では回収してよろしいか。」

(回収・集計)

事務局小出課長「では18名の投票をもって、イトウ委員が新たな委員長に選出された。」

イトウ新委員長、ひとこと挨拶をお願いする。」

イトウ委員長「みなさんとのチームワークを大事に任期を全うしたい。よろしくお願ひします。」

イトウ委員長「では、ここから進行を行う。次の議事に入る。欠員の補充について事務局から説明をお願いする。」

(事務局三田村課長補佐が資料3に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問があるか。(なし)では、補充を申し出るに賛成の方挙手をお願いする。(なし)では全会一致で欠員の補充は申し出ないことに決定した。次の議事に移る。事務局から説明をお願いする。」

(事務局河田専門調査員が資料4に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問があるか。(なし)では、実施方法についてふたつの分科会を設けることに賛成の方挙手をお願いする。(20人挙手)過半数の賛成をもって決定した。次、コメンテーターをひとり呼ぶという案に賛成の方挙手をお願いする。」

スーケット委員「質問がある。コメンテーターがひとりの場合は、当日どのように分科会を

講評されるか。」

事務局河田専門調査員「ふたつの分科会をそれぞれまわっていただき、両方の分科会での議論についてまとめて講評をいただくことを想定している。」

イトウ委員長「では、改めて賛成の方挙手をお願いします。(11人挙手)では、過半数の賛成をもってコメンテーターはひとり呼ぶことに決定した。次の案、そのコメンテーターの選出については事務局に一任することに賛成する方は挙手をお願いします。(11人挙手)では過半数の賛成をもって決定した。」

張委員「質問がある。オープン会議をオンライン開催するかどうか事務局での検討状況はいかがか。」

事務局三田村課長補佐「対面開催で実施する。」

イトウ委員長「他に質問などあるか。(なし)では、次の議事に移る。事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員が資料5に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問があるか。」

ブストフスキース委員「飲食以外の内容で参加ということであれば、企画については新たに考えるのか。」

事務局河田専門調査員「参加することに決まった場合は、交流イベント実行委員会のなかで企画していくことになるだろう。」

イトウ委員長「ではまず、インターナショナルフェスティバルの出展方法について、ステージと展示両方に参加するに賛成の方挙手をお願いします。(15人賛成)次、多文化フェスタさいわいに代表者会議として参加することに賛成の方挙手をお願いします。(9人賛成)過半数の賛成をもって決定した。それでは、部会審議に移る。全体会の再開は、16時40分とする。」

【多文化社会部会】

アディダヤ部会長「それでは部会を始める。事務局から説明をお願いします。」

(事務局三田村課長補佐より資料6に基づき説明)

アディダヤ部会長「何か質問や意見があるか。」

朴委員「学校での日本を母語としない子への学習支援について、内容について一般的に教員が当然のこととして認識していることか、また、支援の要否を判断する基準が明確にあるか。」

事務局三田村課長補佐「教育委員会に確認してみる。」

ルイス委員「二次元コードでの情報の記載は見やすい。」

スン委員「学期の途中で来日した子どもはどのような扱いになるか。」

事務局三田村課長補佐「住民登録したときに、就学対象かどうかを確認できるので、途中から就学する。」

アディダヤ部会長「外国籍の子どもは日本の義務教育対象外である。就学案内を見逃したりした場合、学校に行く機会がなくなるのか。」

事務局三田村課長補佐「教育委員会に確認する。」

スケット委員「情報集のかたちにしてあるのはとてもよい。これに進学の流れがわかるフローを盛り込めたらよりよい。小学校入学以後のフローがわかるものは川崎市では作成がないが、作らないのか。」

事務局三田村課長補佐「フローを作成することは難しかった。1年生はどう、2年生はどう、というふうにならない。生まれたら出生届、その後2歳児健診、予防接種というような案内のように流れていない。」

アディダヤ部会長「公立学校の他に、インターナショナルスクール、民族学校もある。それら情報も含めるのかどうか。」

ジアウル委員「宮前区には学習支援がないという記載だか、本当か。」

事務局三田村課長補佐「市の関係の学習支援施設は宮前区にはない。」

スン委員「多摩区にもない。」

事務局三田村課長補佐「市が把握しているものはない。川崎市独自の取組で、公立小学校に寺子屋教室がある。これは民間ボランティアが運営している。一部が外国籍の子ども向けであるが、外国籍の子どもが多い地域ではそれに対する支援も発生するが、少ないと発生しないということだろう。寺子屋教室自体が、必ずしも外国人向けの事業ではないので、宮前区と多摩区になくても違和感がないというのが実態。同様に、川崎区では青丘社という団体が、学習支援事業を展開しているが、これは川崎区役所が地域活動の事業として連携して実施しているもの。各区の状況に応じて、異なる学習支援のかたちがあるので、まちまちである。」

朴委員「日本の義務教育制度が9年生であるということなど、日本の学校制度の基礎情報も含めた方がよい。」

アディダヤ部会長「フローチャートは不要か。」

朴委員「むずかしいが、詰め込みすぎて大きな資料になってしまわないか懸念する。」

ブー委員「小学校と中学校の説明のときは、外国籍の子どもの場合という但し書きがあるのに、高校からなくなるのはなぜか。」

事務局三田村課長補佐「外国籍の子どもは本当に外国籍だからだ。就学申込書は日本人には届かない。義務教育であるからである。この学校に来てくださいというふうになる。外国籍の子どもは、インターナショナルスクールもあるし、必ずしも日本の学校

に通わなくてはならないわけではない。しかし、日本の学校に行きたいなら行くことができるように対応するというのが、小学校と中学校のところである。高校のところにはなぜないかという、義務教育ではないから。自分で入学試験を受けて入学することを説明した方がよいからだ。」

ブー委員「では、高校には必ず行けるわけではないということを説明すべきだ。」

アディダヤ部会長「国によっては高校も義務教育である。その国の大使館が就学していない子どもを通報する制度はないのか。日本では義務ではないが、母国では義務だという場合、保護者はその責任をどう果たしたらよいか。」

事務局三田村課長補佐「日本にいる外国籍の子どもの義務を果たすために、何かやっているかというやっていると、例えば、ある国の政府が日本のその国の子どもが学校に行っているか調査したいと通報することはあるかもしれないが特別な決まりがない限りできないと思う。制度が違うから。」

ブー委員「大使館に通報して解決するような問題という話ではなく、要するに日本の教育制度では高校から流れが異なるということを明記することでよいのではないか。」

ルイス委員「英国と日本でも教育制度は異なるので、制度の違いを明確にするのはよいだろう。」

ヒラノ委員「学校制度が異なると、年齢と学年の相関がわからない。何歳だったら、何年生なのかかわかるとよい。」

アディダヤ部会長「フローチャートが必要か。」

ブー委員「フローチャートと情報集は別でよいと思う。」

ヒラノ委員「フローチャートは表紙で、詳細は別紙にする。」

スーケット委員「必ずしもフローチャートでなくてもよい。箇条書きでもよい。早生まれの扱いなど、日本独自のものを説明してあるとよい。」

アディダヤ部会長「もう一点、確認したい。公立の学校のことだけに絞るか、インターナショナルスクールなどの情報も盛り込むべきか。」

スーケット委員「注意書きのようなかたちで追記することで十分だろう。」

朴委員「高専とは高校のことか、専門学校のことか。」

アディダヤ部会長「専門学校は高校卒業後に行く学校で、高専はまた別だ。」

事務局三田村課長補佐「時間の関係で、ウェルカムセットについての議事に移られてはいいか。次回ウェルカムセットについて審議するかどうか決を採られてはいいか。」

アディダヤ部会長「ウェルカムセットについて10月に審議することに賛成の方挙手をお願いする。(挙手少数)反対の方は挙手をお願いする。(挙手多数)では取り下げで、ウェルカムセットについてはもう扱わないということで決する。」

事務局三田村課長補佐「ウェルカムセットについては、10月に少しでも議論した方がよ

い。」

ブー委員「教育制度の話をもっと深めるべきだと思う。」

事務局三田村課長補佐「ウエルカムセットについては10月に時間があったら審議するという事になっていたと思う。今日審議したことは提言になると思う。ウエルカムセットもできたらやるということでは、時間的に10月に時間を作っておかないと間に合わない。今日のテーマを引き続き審議したいということもわかるので、ウエルカムセットをもうやめてしまうか、まだちょっとでもやりたい気持ちがあるなら10月に少し時間を取ってもう少しやるということも。案1をウエルカムセットをもうやめる、案2をちょっと時間があたらやる、案3を10月にウエルカムセットをやるという3択でもう一度決を採るべきだ。」

ジアウル委員「時間があったらやるという選択肢を足すことはよいと思う。」

アディダヤ部会長「ウエルカムセットをやらない(挙手3人)、時間があったらやる(挙手5人)、10月にメインでやる(挙手0人)、では、ウエルカムセットは時間があったらやることで決定する。」

アディダヤ部会長「時間になったので部会を終了とする。」

【安心生活部会】

単部会長「では時間になったので、部会を始める。今日は絞り込みである。事務局から説明をお願いします。」

(事務局河田専門調査員より資料7に基づき説明)

単部会長「質問があるか。(なし) 前回の審議の結果、共生コミュニティの形成のテーマのなかで、具体的な提案があれば、挙げてほしい。」

張委員「主に自分が主張してきたテーマであるが、夏の間、自分でも他の自治体の取組を調べたりして検討した。川崎市でも多文化共生プラザなど様々な類似の取組があるので、今期の会議で何か提案することはとりあえずは不要で、現在ある取組を今後も注視していく。その先になにか提案すべきことがあれば、提案したらよいと考えるようになった。したがって、今回の大テーマとしては取り下げでよい。防災・災害のなかで防災訓練に参加を促すという話題があるが、この点でコミュニティのことで絡められる。」

単部会長「他の意見はあるか。(なし) では、共生コミュニティの形成のテーマについては取り下げとしてよければ挙手をお願いします。(12名全員挙手) 全会一致で決定とする。」

単部会長「では、次に、防災・災害の市民文化局が担当する部分から始める。一つ目の防災関連情報をまとめたシートを作ってウエルカムセットに入れるという提案について、

意見があれば出してほしい。」

ブストフスキー委員「シート^{シート}の作成は私達^{わたしたち}がやるのか。」

事務局「そういうことになる。審議^{しんぎ}の中でアイデア^{アイデア}を出し合い^{あひな}皆さんでドラフト^{どらふと}を作ってもいいし、いただいた意見^{いけん}を反映^{はんえい}して事務局^{じむきょく}でドラフト^{どらふと}を作^{つく}って皆さんに確認^{かくにん}してもら^{もら}うという流れ^{なが}でもどちら^{どちら}でもいい。

ブストフスキー委員「時間^{じかん}的には大丈夫^{だいじょうぶ}か。」

事務局「第14期^{だいしよき}を参考^{さんこう}にすると、12月^{がつ}に提言案^{ていげんあん}を作る時^{とき}には(案^{あん})の状態^{じょうたい}で、年明け^{としあけ}にフィックス^{ふいっくす}して翻訳^{ほんやく}という流れ^{なが}だったようである。」

ブストフスキー委員「確認^{かくにん}であるが、11月^{がつ}がオープン会議^{おーぷんかいぎ}なので、10月^{がつ}と12月^{がつ}の2回^{かい}ということか。」

事務局「11月^{がつ}のオープン会議^{おーぷんかいぎ}で、参加者^{さんかしゃ}から意見^{いけん}をもら^{もら}うことになる。成果物^{せいこぶつ}を見せるかどうか^みは皆さん次第^{しだい}である。日程^{にってい}的には、今日^{けふ}と次回^{じかい}の会議^{かいぎ}で何^{なに}を書^かいたらいいか出して^だいただく必要^{ひつよう}がある。」

ヒリストバ委員「今日^{けふ}と今回^{こんかい}で何^{なに}を入^いれたいか決^きめて、12月^{がつ}にはドラフト^{どらふと}が作^{つく}られているという状態^{じょうたい}にする、そういう認識^{にんしき}である。」

単部会長^{たんぶくわいちょう}「先日^{せんじつ}ガブリエラ^{がぶりえら}さんから提案^{ていあん}があ^あったが、アプリ^{あぷり}やQRコード^{QRコード}など既存^{きそん}のものを取^とりまとめてウエルカムセット^{うえるかむせつ}に防災^{ぼうさい}・災害^{さいがい}の関連情報^{かんれんじょうほう}として入^いれるのもいいし、足りない部分^{たふん}を追加^{ついか}してもいいと思う。ウエルカムセット^{うえるかむせつ}に何^{なに}を入^いれたいのか、皆さんと一緒^{いっしょ}に審議^{しんぎ}したい。では、次^{つぎ}の話^{はなし}に進^{すす}む。」

ブストフスキー委員「質問^{しつもん}がある。資料^{しりょう}を見ると、担当^{たんとう}関係^{かんけい}部局^{ぶきょく}が分^わかれているが、提言^{ていげん}として一つ^{ひとつ}にまとま^{まと}っている感じ^{かんじ}だ。今^{いま}、1と2^{りょうほう}があるが、両方^{りょうほう}を一つ^{ひとつ}の提言^{ていげん}として出^だすことは可能^{かのう}か。それともどちか^{どちか}にしないといけ^いないのか。」

事務局「提言^{ていげん}2つ^つでもいいし、1つ^{ひとつ}の提言^{ていげん}の中^{なか}でサブグループ^{さぶぐるーぷ}として2つ^つつけてもよい。」

イトウ委員「2点^{てん}について意見^{いけん}を言^いいたい。災害時^{さいがいじ}に災害ボランティア^{さいがいぼらんていあ}として外国人^{がいこくじん}の配置^{はいち}を強化^{きやうか}することについては疑問^{ぎもん}だ。もう1つ^{ひとつ}は、市職員^{ししょくいん}に向けた研修^{けんしゅう}の部分^{ぶぶん}について、研修^{けんしゅう}をや^やって終わり^{おわり}ではなく継続^{けいぞく}的な研修^{けんしゅう}をや^やっていただきたいと思^{おも}う。」

金委員^{きん}「防災訓練^{ぼうさいくんれん}に外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}がより多く^{おほ}参加^{さんか}するよう工夫^{くふう}というのは具体性^{ぐたいせい}がないと思^{かん}じる。」

単部会長^{たんぶくわいちょう}「どのような工夫^{くふう}をすれば外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}が参加^{さんか}できるようになるかは、皆さん^{みな}にアイディア^{あい}を出^だしていただきたい。」

張委員^{ちやう}「さきほどの話し合^{はな}いの中^{なか}で、日本語^{にほんご}をうまく読^よめない外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}に対して、日本語^{にほんご}のテンプレート^{てんぷれーと}(「防災訓練^{ぼうさいくんれん}は何^{なん}ですか」「自治体^{じちたい}は何^{なん}ですか」等^{とう})を用意^{ようい}して、各自^{かくじち}自治^{じち}体が活用^{かつよう}するとい^いうアイディア^{アイデア}が出^だた。各区^{かくく}の実態^{じつたい}によ^よって活用^{かつよう}の有無^{うむ}は異^{こと}なると思^{おも}うので、市^しからのテンプレート^{てんぷれーと}を用意^{ようい}したほう^{ほう}がより多く^{おほ}の参加^{さんか}がで^できると思^{おも}う。」

楊委員「以前も話が出たと思うが、例えば町内会長達に向けて、やさしい日本語やピクトグラムを入れたらわかりやすいなお、コミュニケーションのヒントを資料で提供するのもアイデアの1つかと思う。」

鎌田委員「マニュアルの更新を提案する。」

単部会長「防災訓練により多くの外国人市民が参加する工夫を議論しているので、マニュアルについて後で願います。」

鎌田委員「追加したい内容は、川崎市は自宅避難に力を入れているので、町内会の関係もあるし、住宅避難のことをわかりやすい日本語で追加したらいいのではないか。」

李委員「防災に興味がある外国人向けに、外国人防災リーダー育成研修をやるのがいい。」

金委員「皆さんが提案したことは、すべて工夫するということに入るのではないかと。大きい提言を防災訓練に外国人市民が多く参加するよう工夫するにして、その下に具体的なまとめシートや区のテンプレートや研修のことを入れていけたらと思った。」

単部会長「それはいいと思うが、防災訓練ではなく、防災意識を高めるにした方がいい。」

イトウ委員「話は変わるが、紙のチラシもいいが、防災のQRコードを入れたマグネットによる広報もいいのではないかと。目につく場所に貼っておいて、災害に遭って困ったときにはピッとやってみるという第一歩になればと思う。」

ボラニスキ委員「紙のチラシだと、1回見て捨てることになるので、継続で提供することができるのはよい。インターネットやアプリで管理して、仕組みをつくるのが大事である。危機管理本部関係のところは、けっこう具体的なものが入っているので、具体的なものを確定してから、時間があれば市民文化局のほうに移ったほうがいいと思う。」

金委員「全部を包括する大きなテーマを決めたらいいのではないかとと思う。」

単部会長「大きいテーマを1つ決めるということですね。」

金委員「防災意識を高める工夫だと具体性がないので、防災意識を高めるためのシステムを整備するとか。」

単部会長「危機管理本部が担当する部分について、意見はあるか。」

イトウ委員「防災アプリの多言語化のところに、やさしい日本語をいれてもらいたい。防災研修はすでにやっていると思うので、あえて入れる必要はないかと思う。」

ポカレル委員「字より絵、絵より動画、動画を作ってTikTok、インスタグラム、FacebookなどSNSを使った方が早いし、効果的だと思う。」

ボソ委員「多言語化プラスやさしい日本語という提案、私達は何ができるのか、例えば安心生活部会で作成することにするのか、市に投げて終わらせるのかということを確認にすればいい提案ができると思う。この国の言葉を追加してほしいということであ

れば、私達が作成するのであればより効果があると思う。」

事務局「危機管理本部が2024年3月に策定している効率的・効果的な防災情報発信に関する基本方針の中に、発信の仕方の方向性として、さらなる多言語化対応を検討するとともにやさしい日本語や簡潔でわかりやすい表現を使用した情報発信を行い、民間企業が提供する翻訳アプリの利用を含め、多言語による情報取得の方法については周知を進めるということを決めている。」

ヒリストバ委員「そのような基本方針が出ているのであれば、こちらで追加しなくてもよいのではないか。」

金委員「災害ボランティアのような災害時に外国人市民を支援する人員を強化するも、提言としては具体性があまりないと思う。災害時はやはり住民同士で助け合うことが大事で、外国人市民向けというのは非常時においては難しいという気がする。」

李委員「私が提案する外国人防災リーダーについて、川崎市ですでに実施しているか。」

事務局「外国人防災リーダーの取組はしていないが、類似するような研修は行っている。」

単部会長「では、次回に残すか消すか、決を採る。まず1つ目、防災アプリを多言語化し多言語の表示の精度を高める、この提言に賛成の方举手をお願いする。(なし)では、2つ目、地震時避難所設営マニュアルの多言語ツールを更新し、風水害時避難所運営マニュアルにおいても多言語ツールを入れる、この提言に賛成の方举手をお願いする。(11人举手)3つ目、災害ボランティアのような災害の時に外国人市民を支援する人員配置を強化する、この提言に賛成の方举手をお願いする。(なし)次に、市職員に向けた防災・災害の文脈における多文化研修を定期的(年に1、2回程度)に実施する、この提言に賛成の方举手をお願いする。(10人举手)」最後は、今後外国人防災リーダーの育成に直結する外国人向けに防災研修を実施する、すでに川崎市に防災ボランティアという類似の取組がされていることを念頭に入れ、この提言に賛成の方举手をお願いする。」

楊委員「質問したい。防災リーダーは、先ほどの市職員の多文化研修と連動できるのではなかった。養成したボランティアが、職員の研修に参加することにより、より現実合った交流になるのではないかと思った。」

単部会長「2つ一緒にして、研修することはできるのか。」

事務局「市の職員向けの研修で、外国人向けにというのは難しい。職員研修の中で、外国人の方に参加してもらって重要性を理解しての研修であれば可能性はあるかも知れないが、一緒に研修というのは難しいと思う。」

単部会長「とりあえず、一度保留して、もし何か別の形で追加できるのであれば、また議論したい。今、既存のものとしては、地震時避難所マニュアルの更新及び風水害マニユ

ある たげんごか と、市職員 に向けた 定期的な 防災と 災害の 研修の 実施の 2つで、市民文化局が担当する 内容については、まだ 具体化 していないので、次回の 議論で 固めて、余裕があれば 追加で 皆さんと 議論して 提言する かどうか 決めていく ということ でしょうか。

次回 10月の 審議した 結果と 内容を 基に、事務局が 提言の ドラフト を作る ので、皆さんの 意見を出して ください。部会 は、ここで 終了 とする。」

【全体会】

イトウ委員長「全体会を再開する。まずは、安心生活部会から報告をお願いします。」

単部会長「今まで審議してきた内容を取りまとめて、市の危機管理本部が担当する内容と市民文化局が担当する内容、提言したら今後どの部署が対応するかという軸を基に議論した。結果としては、地震時避難所設営マニュアルの多言語ツールを更新し、風水害避難所運営マニュアルにおいても多言語ツールを入れるということが、提言候補の1つに決まった。また、市職員に向けた防災・災害の文脈における多文化研修を年1回か2回程度定期的な頻度で実施することも提言候補にした。10月の審議は、さらにこの2つの提言候補に内容を充実させて12月の提言ドラフトがうまく作れるよう頑張る。もう1つ、市民文化局担当の防災関連の情報のまとめシートを作成してウェルカムセットに入れるという話も前回審議したが、まとめシートに何を入れるかなど決まっていないので、10月に時間があれば、防災関連情報のまとめシートを作ってウェルカムセットに入れるということも提案したいと思う。」

イトウ委員「何か意見や質問はあるか。(なし)では、次に、多文化共生社会部会の報告をお願いします。」

ヨザ委員「今日は、主に学校の進路について話し合った。いろいろな学校の資料の説明を入れるかどうかを議論したが、結論としては、フローチャートで説明を追加するという ことで決まった。フローチャートの中で、6歳から18歳までのフローチャート、そして年齢や月を入れる。公立学校をメインに作成するなど様々な意見があったが、恐らく10月に向けて事務局からも情報を準備してもらい、提言の準備を進めさせて いただきたい。次回10月の議題については、先ほどのフローチャートを中心に進め、時間があれば、2つ目のウェルカムセットの審議をしたいと思っている。質問があればお願いします。(なし)」

イトウ委員「次に、実行委員会報告を行う。臨時会実行委員会の報告をお願いします。」

金委員「オープン会議の交流会について話した。交流会の時間は45分程度を予定しているが、当日の雰囲気によって30分程度で終了してもいいのではないかと話になった。飲食については、ソフトドリンクの準備を事務局にお願いできればと思う。」

食事については特に用意せず、小さいミニチョコレートのみ少し用意する。また、伝統衣装を着るという話もあったが、着たい方は是非着てもらえればと思う。着替える場所については、事務局に確認していただく。交流の内容については、その場で自由なコミュニケーションを中心にしたい。以上。」

イトウ委員「つづいて、ニューズレター編集委員会の報告をお願いします。」

ブー委員「9月に第1号のニューズレターをホームページに掲載されたので、確認していただきたい。委員の方々からいろいろなアイデアを出してもらい、もっと魅力的に感じられるよう、フォーマットはもう少し自由に変更できるようにするなど、話し合った。結局決まったフォーマットでは他のフォーマットを自由にいじることができず、今までどおりのフォーマットになっている。次のニューズレターについても、話し合った。」

イトウ委員「交流イベント実行委員会の報告をお願いします。」

ウイ委員「共有とお願いが3点ある。イベントに参加する目的としては、代表者会議をもっと知ってもらうこと、オープン会議でもっと多くの方に参加してもらうこと、この2つである。それに向けて、従来のクイズや、今回はゲーム、各国のじゃんけん、先ほど服装の話も出たが、民族衣装があれば着ていただくなどの案が出ている。あとは、代表者会議のことなど、わかりやすい資料1枚ものを河田さんに作ってもらう予定になっている。2点目は、事前準備の協力をお願いである。昨年みなさんの御協力で大成功だったので、今回2年目も御協力をお願いしたい。3点目は、当日の参加である。これも活動の1つになるので、是非積極的に当日の参加をお願いしたい。」

イトウ委員「今日の議事は以上である。」

【事務連絡】

イトウ委員「事務局から事務連絡があればお願いします。」

事務局「事務連絡が2点ある。今、多くの家に、第16期代表者会議の代表者募集のお知らせが届いていると思う。代表者会議は2期継続できる。興味があれば、是非2期目も応募してほしい。2点目は、本日机上配布している資料の中に、チラシがあるとと思うが、10月26日に、「外国につながる中高生と先輩の交流会」を開催する。外国につながる子どもがどのように進路を決めていったのかという体験談を、中国・ネパール・パキスタン・フィリピン出身の10代から30代の若者に話してもらう予定である。参加対象者は、外国につながる中高生世代とその保護者、支援者となっている。

時間があれば参加してもらいたい。お友達にも声をかけてほしい。以上」

イトウ委員「何か質問はあるか。(なし) 以上で今日の日程は終了とする。次回は10月
12日、日曜日に、ここ国際交流センターで開催する。これで2025年第2回
第2日の会議を終わりとする。」